

## 復興と心とテキスタイル

— 人々の心をケアし活性化するテキスタイル「ケア テキスタイル」 —

*Reconstruction, Mind and Textiles*

— *Textiles That Care and Energize People's Hearts "Care Textiles"* —

細田 あずみ *HOSODA Azumi*

(デザイン領域)

### はじめに

日本は、昔も今も災害の多い国である。自身も1995年の阪神・淡路大震災では神戸で被災者となり、今も復興を考え続けている。

昨年、一昨年の研究では、神戸の景観をテーマにしたテキスタイルを発表した。2017年は神戸開港から150周年にあたる年であり、自身も会員であるNPO法人“愛loveきもの幸の会”とともに、神戸を題材にデザイン・制作した着物を神戸で発表し、地域の活性化に貢献した。そして、これらのイベントに参加した人々が着物やテキスタイルに触れ、彼らの心の活性化にも影響していると感じた(図1)。

昨今は感染症の流行により、常に災害時のような緊張感の中で、人々は日々過ごしている。人々の心をケアし、活性化するテキスタイルとは何か、それが地域の活性化につながるのではないかと考える。

本研究では昨年の研究から発展し、災害(感染症も災害に含める)時の緊張感ある心を癒し、人々の心を活性化する新たなテキスタイル「ケア テキスタイル」と名付け、研究・制作に取り組む。

まずは、災害で傷ついた心を復興させるため、復興行事でテキスタイルがどう関係してきたかを検証する。その後、これらを踏まえてテーマを決定し、「ケア テキスタイル」を制作し、研究発表する。この研究を通じて、災害復興を考え、災害支援となり、人々の心のケアと活性化につなげたい。

### 1. 復興と祭

復興と心とテキスタイルの関係について考える。人々の心をケアし、活性化するテキスタイルとは何か。「復興と心」に大きく関わっているテキスタイルの一つに祭に使われるテキスタイルが挙げられる。

日本の祭は、厄除けの意味が込められているものが多い。災害の多い日本にとって、祭は復興のイベントとして日本各地で大切にされている。祭で使われるテキスタイルは、行事の厄除けの道具として使われるものがある。祭のテキスタイルを題材に、厄を除ける

「ケア テキスタイル」を制作する。

## 2. ケア テキスタイル① 日よけ厄除け日傘

京都の祭「祇園祭」を題材にテキスタイルを制作する。祇園祭は、京都で毎年7月に行われる祇園・八坂神社の祭礼である。平安時代前期、京都では疫病が流行していた。疫病に苦しむ人々は、神泉苑にササノヲノミコトなど祇園の神様を迎えた神輿3基と66本の矛を立て御霊会（ごりょうえ）を行い、神に疫病を鎮めてもらおうとしたのが始まりとされる。祇園祭は、様々な困難で中断したが、その度に街の人々の力で復興し、千年以上続く歴史ある祭である。1979年に祇園祭山鉦行事が重要無形民俗文化財に、2009年にユネスコの無形文化遺産に登録された。2020年の祇園祭は、新型コロナウイルスの影響で山鉦巡行などは中止となったが、予定の神事は形を変えて執り行われる。

祇園祭のテキスタイルは、山鉦に装飾する懸装品、生稚児や禿が身につける装飾品、鉦町（山鉦を守る京都の町のこと）の人々の浴衣や手拭い、鉦町の暖簾や幕など多数ある。懸装品とは、山鉦を装飾する世界各地の工芸品のことで、山鉦はその美しい姿から「動く美術館」と呼ばれている。テキスタイルの懸装品は、前掛・胴掛・後掛・見送・水引と、山鉦に飾る部分によって名称が付けられている。インド刺繍の胴掛、染織作家の水引、李朝時代の朝鮮段通、17～18世紀製のラホール絨毯の前掛や胴掛、ベルギーのフランドル地方の約400年前に製作されたゴブラン織のタペストリーなど世界各地の染織品が飾られる。祇園祭を彩る懸装品の多くは国の重要文化財に指定され、色落ちや傷みから守るため修復や復元されて、山鉦巡行の時に飾られるもの以外にも複数種類があり、宵山などで一般公開しており、見ることのできる品もある。テキスタイルの懸装品の部位の説明をする（図2）。

### 前掛（まえかけ）

山鉦の前面部分を飾る大きな掛け物。山鉦巡行の際、音頭取り（おんどとり 鉦の前部に二人で立って扇子と掛け声で合図を送り、鉦の行方を統括する役目の人）のすぐ後ろにある山鉦の主となる懸装品である。

### 胴掛（どうかけ）

山鉦の側面を覆う掛け物。「西胴掛」と「東胴掛」と左右2つあり、それぞれ違う染織品を装飾する。

### 後掛（うしろかけ）

山鉦の後ろ部分を覆う大きな掛け物。山鉦巡行の際は見送りで隠れて、部分しか見えない。

### 見送（みおくり）

山鉦の背面を覆う大きな掛け物。山鉦巡行の時、鉦が通り過ぎた後に見送りながら見る

ことができる。

水引（みずひき）

前掛や胴掛、後掛の上部にある細長い掛け物。

学生時代から25年間毎年、祇園祭を観覧し、スケッチしてきた。スケッチした懸想品や祭の厄除けのアイテム等をモチーフに選び、日傘に染色する。日をよけ厄を除ける日傘を制作する。祇園祭の開催期間中に、これらの日傘を京都のギャラリーギャラリーで発表した（図3）。

### 「日よけ厄除け傘展」

会期：2019年7月13日(土)～28日(日)

会場：ギャラリーギャラリー 京都

出品作品：日傘12本。綿地に反応性染料でろうけつぞめ 縹染 2019年制作

### 出品した日傘の解説

#### ・鳳凰

長刀鉾巡行の時、生稚児は鳳凰の飾天冠を頭に載せる。鳳凰は伝説の鳥、瑞鳥（ずいちょう めでたい事の起こる前兆とされる鳥）と言われている（図4）。

#### ・舞妓 勝山

7月上旬頃から京都の舞妓は「勝山」という髪型にして、祭を迎える。「梵天（ぼんでん）」という銀色飾りの中に撫子の花をあしらう（図5）。

#### ・玉取り獅子

中国の文様で、「繡珠」と「獅子」が戯れる様子を文様化したもの。「獅子」は、邪気を払う魔除けの意味を持つ。「繡珠」とは、雌雄の獅子が戯れるうちに毛が絡まりできた毛玉。この毛玉の中から獅子の子が生まれるとされ、強い男子を得る吉祥文とされる。函谷鉾などの懸装品に玉取り獅子の李朝時代の段通がある（図6）。

#### ・車と縄

祭の鉾や山の車輪、そして組み立てていく時に使う縄。鉾や山は、釘やネジを使わない「縄絡み」という伝統技法によって立ち上げられていく（図7）。車や縄の重量感が出るよう、青色を3回染めた（図7）。

#### ・蝶蜻蛉

生稚児が「吉符入」や「曳き初め」の時、頭に蝶蜻蛉の冠をつける。細工物の蝶の尻尾にあたるころには、孔雀の羽が飾られている（図8）。孔雀の羽の浮遊感を出すのに蠟の線描きを薄く細くし、被せ（蠟の上から染料をかぶせる技法）をし、軽さを出した（図8）。

・蝶蜻蛉（禿）

長刀鉾の巡行の時に禿（かむろ）がつける蝶蜻蛉の頭飾り。禿とは、稚児の左右に1人ずつ控えるお供の男児こと（図9）。鳥の羽根飾りの部分には、上記の被せ技法を使う。

・月と波と兎

波は、火除けの守りとされ、月の精である兎は、子孫繁栄や豊穰をもたらすめでたい瑞獣とされた。月鉾の軒回りに波と兎の装飾がほどこされている（図10）。

・日よけ厄除け

様々な厄除けの生き物達。鳳凰・鶴はいくつもの鉾の懸装品に、亀・兎・鳥・貝は月鉾などの懸装品に、孔雀は長刀鉾の懸装品などに使われている（図11）。

・檜扇

古代、檜扇（ひおうぎ）で悪霊を退散したという言い伝えがある。祇園祭の期間中、民家の床の間や玄関で、魔除けとして檜扇を飾る。檜扇の歯の滑らかな質感をほかし染めで表す（図12）。

・蝙蝠と雲

蝙蝠は中国では、「偏福」に通じるため、幸運の象徴とされている。また、100年以上生きたネズミがコウモリになるという伝説もあり、長寿のシンボルでもある。瑞雲は、縁起が良いことの兆しとした雲を図案化したもの。木賊山や長刀鉾の欄縁金具に用いられる。亀裂染を使い、雲や蝙蝠にロウの亀裂を染め、欄縁金具の重みを表現した（図13）。

・螻蛄おみくじ

宵山の時に、螻蛄山のできるおみくじ。ハンドルを回すと、からくりの螻蛄が祠からおみくじ番号の玉を受けとり、持ってくる（図14）。

・蛸

半夏生（はんげしょう）に蛸を食べるといふ風習がある。タウリンが多く、食すと滋養がつくと言われていふ。半夏生は「雑節」の1つで、夏至の日から数えて11日目にあたる日、もしくはその日から5日間、月日でいうと、7月2日頃から6日頃である（図15）。

### 3. ケア テキスタイル② 屏風「octopus」

蛸をテーマに、人々に活力を与えるテキスタイルを制作する。今期、自身が手首を骨折し、約1年治療とりハビリの日々を過ごした。その頃に海中を手足自由に舞う「蛸」に出会い、深く印象に残った。上記の日よけ厄除け傘展の「蛸」で記したが、半夏生（はんげしょう）に蛸を食べると滋養がつき、活力が出るといふ。作品の構図は、蛸のモチーフを滑らかな曲線と曲面で構

成した。コの字型に屏風を置くと、観客が染めた蛸の足に包まれるような感覚を受ける。観音開きにし、屏風裏を黒に染めた。屏風を開ける時に蛸の赤色が溢れてくる仕掛けで、観客は蛸の活力を受け取ることができる考える。この屏風は、「祈り」を題材にしたグループ展「祈り～9 stories」にて発表する（図16）。

#### 「祈り～9 stories」 京都精華大学後援

会期 2019年10月15日(火)～10月27日(日)

会場 ギャラリーマロニエ 京都

出品作品：「octopus」

屏風（観音開き）200×260cm 絹（白山紬）に酸性染料で<sup>ろうけつぞめ</sup>臙纈染 2019年制作

#### 4. ケア テキスタイル③ 住吉だんじり祭りの祭用長襦袢

地元の神戸市の住吉だんじり祭りで着る男性用長襦袢を制作する。住吉だんじり祭りは、元は夏祭りとして行われていた。夏の疫病の退散と厄除けを願い、旧暦の6月30日（今の暦で7月末～8月初め）に、本住吉神社の例大祭（神社の祭祀の中で最も重要な祭祀）に地車の奉納を行ったことが祭の始まりである。

魚崎区には、歴代太鼓が保存されており、一番古いものに寛政7年（1795年）製作の表記があり、江戸時代後期にはだんじり祭りが行われていたことがわかる。その後祭は何度か中断したがその度に復興し、現在5月5日、渡御の後に全地車が町内巡行して、町内を清め祓っている。

だんじりは、車輪をつけた車上に人物・草木・鳥獣などの飾りを立てて、はやしを行い引いて練って行く。だんじりは、曳きだんじりと担ぎだんじりの2種類に分けられ、東灘のだんじりは、曳きだんじりに分類され「神戸型」と呼ばれ、飾り幕・山形提灯・外ゴマがあるのが特長である（図17）。

飾り幕：金糸、銀糸、色糸を使用し立体的に龍や神話などを立体的に制作。

山形提灯：屋根の上部に白い地区の名入りの提灯を山の形に取り付けている。

外ゴマ：土台の外側に取り付けられている車輪（コマ）。

住吉だんじり祭りのテキスタイルは、飾り幕、町民が着る浴衣と長襦袢（浴衣や着物の下着）、法被などである。住吉だんじり祭りに自身は子供の頃から参加して、地車を町内で引いていた。以前より住吉だんじり祭りのテキスタイルを制作したいと思っており、活性化するテキスタイル「ケア テキスタイル」として祭用長襦袢を制作する。呉田区の屋根乗り（屋根やだんじり前面に乗り、踊りながら先導する人）の長襦袢を染める。浴衣は、區により決められた浴衣を着るが、浴衣下に着る長襦袢は個人でそれぞれ趣向を凝らし誂える。

吉祥文様（縁起がいいとされる動植物や器物などを描いた図柄）を中心に、神戸ゆかり

の柄も盛り込む。長襦袢全体の構図は、熨斗目柄（熨斗目とは、アワビを薄く伸ばして作る“のし鮑”を束ねたもののこと。アワビは古来より長寿を象徴する縁起の良い食物である。）で構成する。熨斗1つずつに違う柄を染める（図18、19）。

「宝尽くし熨斗目」 住吉だんじり祭り長襦袢 絹（精華）地に酸性染料で縹染  
熨斗の中に染めた吉祥文様

・宝尽し：下記の宝が描かれている。

宝珠（ほうじゅ）：丸くて上の方がとがっている玉。仏教では観音菩薩が持っていたりする。

隠れ蓑・隠れ笠（かくれみの・かくれがさ）：雨や日光から守る。危険な事物から姿を隠し、守る。

打出の小槌（うちでのこづち）：打てば宝がでてくる小槌。

鍵：大切なものを守る土蔵の鍵。

金囊（きんのう）：砂金や金貨を入れる袋。

宝巻・巻軸（ほうかん・まきじく）：貴重な經典の巻物や軸。

分銅：金銀を計る重り。

丁子（ちょうじ）：仏宝で貴重な薬・香料。

・松竹梅：松と竹と梅の三つの植物を組み合わせた文様。

松：常に緑を保っているので、常盤の松、長寿の象徴。

竹：中空で節があり裏表のない高潔さ、厳寒や酷暑にも耐える節操を意味する。

梅：他の植物に先駆けて花を開く。長寿・高潔・節操・清純の象徴。

・六瓢箪：6つ揃えば無病（六瓢）息災の意味。

・富士：霊山として崇拜され、登山信仰もある。

・桜：古くから愛され、花の咲く様子で穀物の実りを占ったりした。

・宝船：七福神や八仙が乗った、または宝物を積み込んだ帆船。

・青海波：円弧を重ねて規則的に表し、海がもたらす幸福を呼ぶ文様。

・亀甲：亀の甲の正六角形の幾何学文様で、長寿や永遠の繁栄を呼ぶ文様。

・七宝：円周を円弧で4つに分けた文様。装飾の形容として使われる。

・菱：菱の実をモチーフにした文様。

・網代：冬に網の代用で魚を取る柵の装置。

・石畳：市松模様とも言い法隆寺や正倉院の染織品にも見られる。

・流水：S字状に平行曲線を連ねて、水の流れる様子を表した文様。

神戸ゆかりの文様

・錨：神戸のシンボルでもあり、神戸の山に錨の山麓電飾がある。

- ・海：神戸港の瀬戸内海。
- ・鯛：「めでたい」語呂合わせで祝い事に用いられる。真鯛は瀬戸内海の名産。

太めの線描きで蠟を置き、遠くからでも柄が鮮明に見えるようにした。住吉だんじり祭りで使われる提灯に名入れをして、左肩の部分に染色する。残念ながら住吉だんじり祭りは延期になったが、祭りで披露するのは来年度期待したい（図20）。

### 終わりに

今期初めは、災害で傷ついた心を復興させるための「ケア テキスタイル」を制作し、研究発表した。「ケア テキスタイル」を制作するにあたり、自身が励まされた行事や出来事を振り返ることが大切だと思った。振り返りから、「祇園祭」「明石の蛸」「住吉だんじり祭り」を題材に研究し制作した。

日本全体が感染症で未曾有の事態の中、復興と心とテキスタイルの関係を考え、人々の心をケアして活性化するテキスタイルを研究することは、いろんな人々の復興や支援となると考える。今後も「ケア テキスタイル」の研究を続けていきたい。

### 参考文献

- 川嶋将生 祇園祭 祝祭の京都 吉川弘文館 東京都 2010年  
中田昭 京都祇園祭 京都新聞出版センター 京都 2011年  
濱田信義 日本の文様 パイ インターナショナル 東京都 2013年  
水野薫 住吉のだんじり写真集2019 住吉地車振興会 2019年



図1 神戸港開港150周年記念  
和装ファッションショー

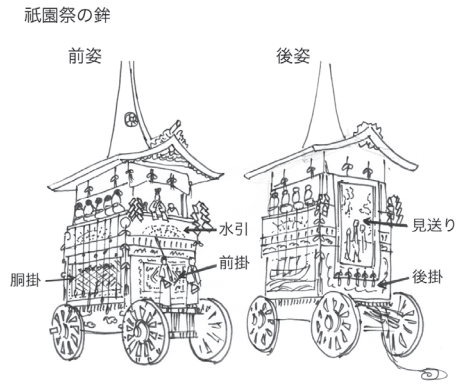


図2 鉦のテキスタイル



図3 日よけ厄除け傘展

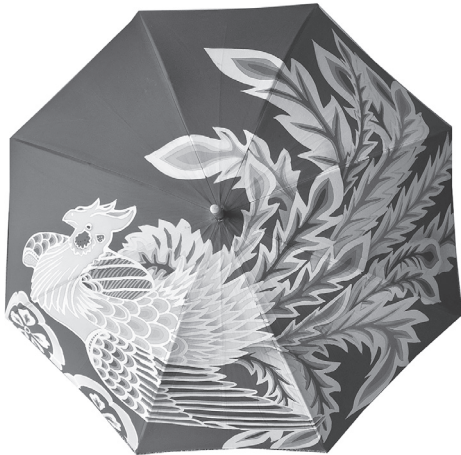


図4 日傘 鳳凰



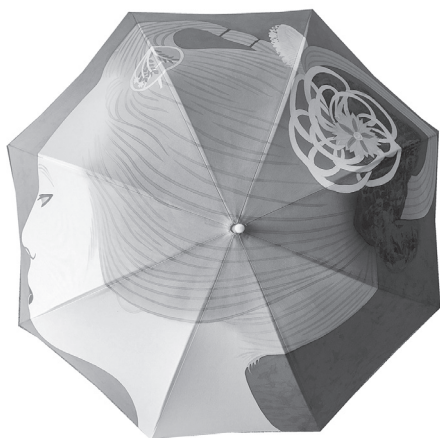


図5 日傘 舞妓勝山



図6 日傘 玉取り獅子



図7 日傘 車と縄

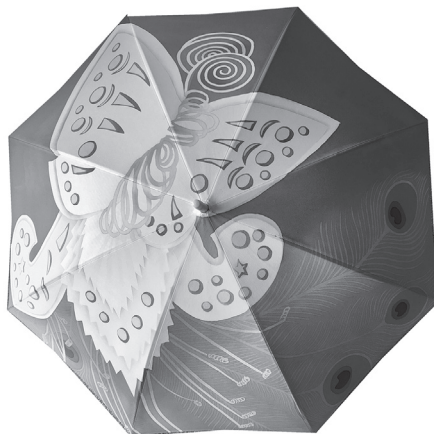


図8 日傘 蝶蜻蛉

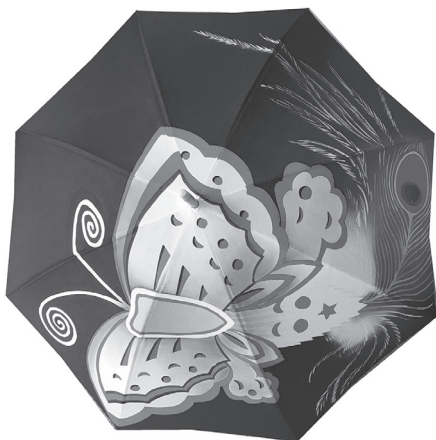


図9 日傘 蝶蜻蛉(禿)

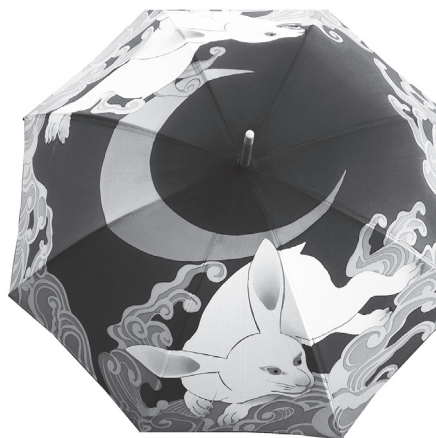


図10 日傘 月と波と兎



図11 日傘 日よけ厄除け



図12 日傘 檜扇

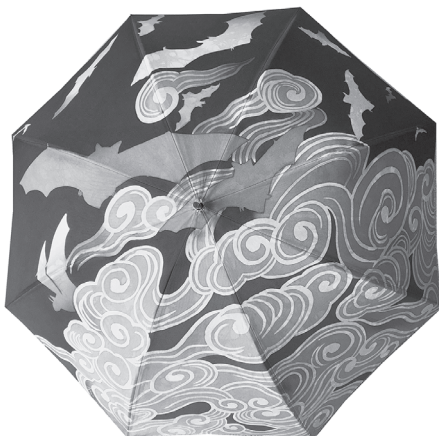


図13 日傘 蝙蝠と雲

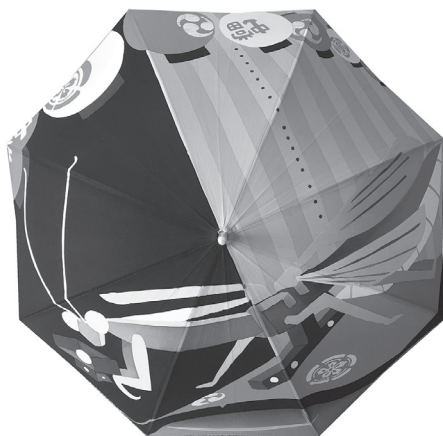


図14 日傘 蠶嬢おみくじ



図15 日傘 蛸



図16 octopus



図17 住吉だんじり祭り 地車



図18 住吉だんじり祭り「熨斗目」



図19 住吉だんじり祭り「熨斗目」前姿



図20 住吉だんじり祭り「熨斗目」着姿